

クランクベイトの自作8 - 塗装 -

1 はじめに

前はブランクの作製を掲載しました。今回は塗装です。ブランクの乾燥が終わると、いよいよ塗装です。まず下処理をします。そして、着色、コーティングと進みます。

2 塗装の手順

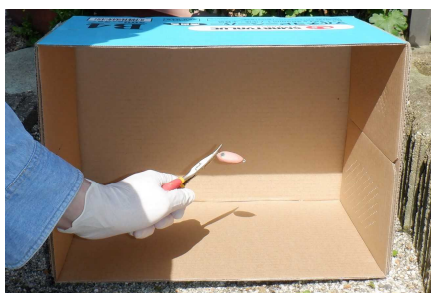
(1) 着色前の下処理(下地づくり)

ブランクの乾燥が終わり、いよいよ塗装です。着色前に下処理をします。ブランクの表面がざらついているので、サンドペーパー1000番で表面を磨きます。次に、爪マニキュアのトップコート塗るか、スプレー式クリアラッカーを吹き付けます。爪マニキュアのトップコートは百円ショップで、スプレー式クリアラッカーは百円ショップ「ダイソー」で購入しました。軽量粘土は水で柔らかくなるので、トップコートやクリアラッカーで表面を固定することが目的です。2～3回行います。

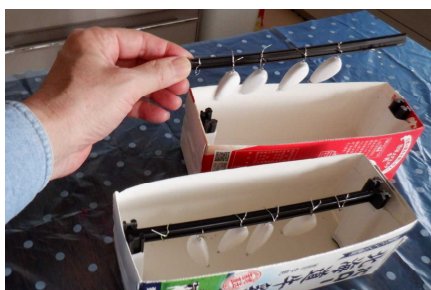
トップコートの場合は、量を多めに塗ることがコツです。少ないと筆で塗った跡が残りました。クリアラッカーは、吹きつけの際、ブランクまでの距離が近いと、表面に気泡(泡)がつきます。30cmくらい離して吹きつけることがコツです。ネットでは、ウレタンクリアのどぶ漬けが紹介されています。今後は、処理が簡単なクリアラッカーの2回吹き付けを考えています。もう少し研究検討の余地があります。



段ボールの中には、使い捨て手袋、マスク、ラジオペンチ、先曲がりペンチ、ラッカースプレー、乾燥台、その中にブランク4個が入っています。



ラッカースプレーを吹き付けるときは、段ボールの中に向かって吹き付けます。



その後、6個まとめて吹き付けられるようにしました。ラッカースプレーをブランク1つつ吹き付けるのは不経済だと思ったからです。乾燥台は牛乳パックでできています。6個まとめて吹き付けた後、そのまま乾燥台に入れられるように作りました。写真は4個しかぶら下げてありません。

(2) 下塗り

色を塗ったときの発色を良くするために、白かシルバーで塗るようです。今回は、白色の軽量粘土を使っているので、省略しました。

(3) 着色

着色には、アクリル絵の具を使いました。使用するとき、水を使って薄めることができますが、乾燥すると水で色が流れるということはないそうです。色を混ぜて使うこともできます。水彩絵の具のように使うことができるので手軽です。乾いてしまうと水で落ちないので、服や周りを汚さないようにすること、使った後の筆や水入れを丁寧に洗うことが必要です。パレットには使用済みの食品用トレーをきれいに洗って使用しました。使用後はゴミとして処理します。アクリル絵の具は百元ショップ「ダイソー」で購入しました。



どうしても塗りむらや筆の塗り跡が残ります。2度塗り、3度塗りを行いました。

ブランクの前後で色を塗り分けるときにはマスキングテープを使います。百元ショップ「ダイソー」で購入できます。



ブランクに貼られた黄色い帯がマスキングテープです。

ペンチでつまんでいるブランクは、ピンクの色を塗り終えています。乾燥後、ブランク前部に黄緑色を塗る予定です。

(4) 着色後の処理(コーティング)

アクリル絵の具は乾燥すると水で色が流れるということはないのですが、表面をより硬くするためにコーティングを行います。ネットではどぶ漬けが紹介されています。

今回は、印刷した目をブランクに貼るので、目を貼った後に、コーティングしました。コーティングとしてトップコートに3回塗りました。

3 終わりに

色むら、筆の跡がどうしても残りました。2~3回の重ね塗りでは少ないのでしょうか。また、コーティングも筆の跡や吹きつけによる気泡も気になりました。どぶ漬けがいいのでしょうか。研究検討の余地があります。また、アクリル絵の具やコーティングの耐久性も気になるところです。

次は、「目」です。

